

早稲田大学 第二文学部 漢文 講評

〔総合分析〕

試験時間 国語 90 分（現代文 2 問 古文 1 問 漢文 1 問）
出典 未詳

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
四	問二十四	〈解釈〉 傍線部の内容を大まかに捉える力と、傍線部に続く内容を合わせて考える読解力を試す設問。傍線部に続く「執而掠問…」の内容を踏まえることがポイント。	標準
	問二十五	〈返点〉 基本問題。漢文の基本構造を踏まえ、否定の句形・動詞と目的語・補語の関係・置字などを捉えればさして困難なものではない。	標準
	問二十六	〈解釈〉 問二十四と同様、傍線部の内容を大まかに捉える力と、傍線部に続く内容を合わせて考える読解力を試す設問。傍線部に続く「欺」をヒントにすると選択しやすい。	標準
	問二十七	〈理由説明〉 本文の主旨が把握できているかを問う設問ともいえるが、さして難解ではない。「賊」が「何從世」を釋した理由を問うているのだが、傍線部の直前の「賊憐其孝」をヒントにすれば正答は容易	標準

〔総合コメント〕

難易度 標準
分量 昨年並み。02 年がおよそ 160 字、03 年がおよそ 120 字、04 年がおよそ 150 字、本年は 156 字で平年並みの分量。設問数は 4 問で、95 年にそれまでの 5 問から 4 問に変更になって以来、変動はない。

出典

古文同様出典を示していないが、読みやすく理解しやすい本文と言える。初見の漢文を読みこなす力を養いたい。またいわゆる旧字体による表記にも慣れておきたい。

形式

傍線部の内容把握と理由説明、返点を付す設問の計4問、昨年に比べ、些か偏りがあるように思われるが、すべて基本的な出題形態。